

臨地実習受け入れ施設における技師の意識調査

◎田中 佳¹⁾、吉野 直美¹⁾、畑中 裕子¹⁾、寺内 利恵²⁾、飯沼 由嗣³⁾
金沢医科大学病院 中央臨床検査部¹⁾、金沢医科大学病院 病院病理部²⁾、金沢医科大学 臨床感染症学³⁾

【目的】

当院では近隣の臨床検査技師養成校の要請を受け、2020年より年間約30名の臨地実習生を受け入れて指導・教育にあたっている。受け入れ3年目にあたり、今後の実習内容の改善や業務への負荷軽減を目的として技師にアンケート調査を行ったので報告する。

【方法】

検査部、病理部、血液センターの臨床検査技師65名を対象とし、2022年7月に無記名のアンケート調査を行った。調査内容は、学生指導に対する業務負荷の意識や指導内容の創意工夫など10個の質問に対して選択回答或いは自由記載を求めた。

【結果】

65名中61名の回答を得た（回収率94%）。

「あなたは臨地実習の指導や教育に関与しているか」との問いに対して、とても43%、少し46%、合わせて92%の技師が実習に携わっていた。「時間的又は精神的な業務への影響があるか」との問いに、とてもある27%、少しある58%、殆どない10%、全くない5%と、全体の85%が影響ありと回答した。一方で、「学生を指導・教育することはあなたにとってプラスか」の問いには、とてもプラス14%、少しプラス73%、少しマイナス10%、その他3%と、全体の87%がプラス側に回答した。また、「現在の実習が学生にとって単位取得以外に有益な点があるか」に対しては、とてもある49%、少しある46%と多くが有益と回答した。また、「当院が臨地実習生を受け入れる必要性（複数回答可）」については、地域の基幹病院・大学病院だから80%、臨床検査技師の将来のため49%、自分もしてもらったから26%、就職してもらおうため18%などと回答した。「最終日の学生のプレゼンは誰に有益か」では、学生に有益15%、指導者に有益2%、両者に有益72%、両者に無益6%、その他5%の回答であった。また、実習ガイドライン変更の知識を問う「心電図などは患者での実施が必須になったこと」の認識は48%にとどまった。

そのほか自由記載では、各回答を選択した理由について50件、「業務に影響を与えず、臨地実習を実施するために現在している工夫」26件、「今後、新たに臨地実習に取り入れるとよいと思う検査や業務」5件が得られた。これらの集計結果および具体的な全意見を技師に回覧した。

【考察】

今回、本調査結果や他部門の工夫を共有することで、今後の改善や業務への負荷軽減の一助になったと思われる。また、多くの技師が「指導は自身にとってもプラスになる」と回答したことや、最終日の学生プレゼンが「技師にも有益」との回答が多かったことは興味深い。また本調査に回答することで、各技師が「臨地実習生を受け入れる理由」をあらためて考える機会になったものと思われる。新実習カリキュラムの詳細に対する理解は高くなかった（はい48%）ものの、本調査は1年以上前であり、新カリキュラム対応が2年後に迫る現在は徐々に技師の意識は上がってきており、一部で具体的な指導メニューも考え始めている。

本報告は1施設での調査結果であり何らかの偏りの可能性も否定できないが、臨地実習を提供する技師に共通する意識や実態、工夫を多く含むと考え、発表当日は具体的な意見など詳細についても述べる。

【結語】

臨地実習を指導する技師にアンケート調査を行いその結果を部内で共有した。本調査は実態の把握に有用であったと同時に、技師にとってあらためて臨地実習について考える機会となった。

連絡先：076-286-3511（内8565）